

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

明るく、健康的で、自主・創造性に充ちた意欲を持ち、進んで社会と人類の福祉に寄与するに足る人物を育成する学校をめざす。

1) 異世代・異文化交流によって多様性を享受できる環境を提供し、思いやりのある人物を育成する学校をめざす。

2) 地域連携を通して、自分を取り巻く社会の課題に目を向け意欲的に関わろうとする人物を育成するとともに、地域に信頼される開かれた学校をめざす。

3) 自然災害が多発している今日の日本において、自らの意志によって行動し、己を守り周りを支えることのできる、危機対応に長けた逞しい人物を育成するとともに、危機対応を前提とした安全教育・防災教育を推進する学校をめざす。

2 中期的目標

1 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力・支える知恵」の育成に取り組む

ア 教職員からの積極的な挨拶・声掛け等をとおして安心できる環境づくりに努め、すべての生徒に対して規範意識・人権意識の向上を図る。

イ 生徒会活動・学校行事の活性化、部活動の充実化を図る。

ウ 国際交流活動を推進することにより、グローバルな世界観を培う。

エ 「朝の読書」を通して読書を生活習慣の中に確立させるとともに、図書室の役割を強化し、生徒の読書意欲を喚起する環境を整える。

※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を令和 9 年度まで 90%以上を維持する。(R4 94.4%, R5 95.2%, R6 95.9%)

※年間遅刻者延数前年度比 10%の減少を図る。(R4 1543, R5 1228, R6 1502)

※部活動加入率を令和 9 年度に 60%以上 (R4 47.4%, R5 68.4%, R6 58.0%) とし、生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動関連の肯定的意見を令和 9 年度に 80%以上とする。(R4 78.6%, R5 85.0% , R6 76.3%)

※海外語学研修および国際交流事業を積極的に展開していく。また、より多くの生徒が関わることができる取組みとして実践していく。

※生徒向け学校教育自己診断における朝の読書関連の肯定的意見を令和 9 年度に 80%以上とする。(R4 82.3%, R5 78.4%, R6 69.5%)

(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障する

ア 文系選抜コースで、実践運用能力重視の英語の授業、読解力・表現力を取入れた国語の授業を展開し、難関大学への合格をめざす。

イ 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる。

ウ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む。

エ 進学講習を組織的に実施する。

※外部指標のある教材や模擬試験を活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく。

※卒業生の全進学合格数に占める 4 年制大学合格率を令和 9 年度まで 55%を維持する。(R4 57.4%, R5 59.0%, R6 67.3%)

※学校斡旋の就職内定率 100%を維持する。(R4 100%, R5 100%, R6 100%)

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関連の肯定的意見を令和 9 年度まで 90%以上を維持する。(R4 94.6%, R5 95.9%, R6 94.9%)

(3) 安全で安心な学校づくりを行う

ア 教育相談室を活用し教育相談体制を充実させる。担任・SC・SSW 等との面談や対応がスムーズに活用できる体制を構築する。

イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、ガイダンス・HR の系統化を図る。

ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進、支援の充実を図る。

エ 地元自治体や地域との連携のもと、防災・減災に向けた取組み及び緊急避難対応等への取組みを推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的意見を令和 9 年度に 70%以上とする。(R4 61.6%, R5 64.3%, R6 67.2%)

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的意見を令和 9 年度まで 90%以上を維持する。(R4 92.4%, R5 94.8%, R6 93.1%)

※障がいの有無にかかわらず、配慮の必要な生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実。

2 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる

ア 授業において、常に生徒の知識欲や満足度を高めるための研究と実践を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る。

イ 学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う。

ウ 1 人 1 台端末および全教室 ICT 機器設置の環境を積極的・効果的に活用し、より魅力ある授業の取組みを進める。

エ 放課後や休日における学習習慣が定着する取組みを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和 9 年度まで 80%以上を維持する。(R4 82.2%, R5 86.1%, R6 86.2%)

※教職員向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和 9 年度まで 90%以上を維持する。(R4 94.1%, R5 96.7%, R6 91.2%)

(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力 UP につなげる

ア 社会の変化に対応し「学び続ける」意識の共有化を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善をさらに推進する。

イ 「働き方改革」や健康管理の観点から、全校一斉退庁日の設定とノークラブデーの徹底を図る。

※相互授業見学への教員の参加を、授業アンケート等を活用して前年度以上に増やす。(R4 113, R5 108, R6 231)

※若手教員技量向上へ(新採 3 年めまで対象の)新三研修を継続させ、それを全体研修へと発展させていく。

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく

ア 【学校を外に開く】自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との交流を通して地域貢献を推進する。

イ 【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会を実施し、中学校との連携を強化する。

ウ 【学校を外に開く】高石市や近隣自治体の自然災害に関する事業連携を継続し、地震・津波等に対する危機管理意識の更なる向上を図る。

エ	【学校を内に開く】学校説明会、HP 等を活用して、積極的な情報発信に努める。
オ	【学校を内に開く】学校運営協議会、PTA、同窓会、後援会との連携を強化する。
	※地域交流が活発であったか。
	※生徒、教員による中学校訪問合計数 100 件以上を維持する。(R4 111, R5 113, R6 105)
	※クラブ体験を含めた体験入学者数、学校説明会参加者数の合計延べ 800 名以上とする。(R4 827, R5 808, R6 600)
	※生徒向け学校教育自己診断における危機管理関連の肯定的意見 90%以上を維持する。(R4 93.3%, R5 94.7%, R6 91.7%)
	※保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定的意見 90%以上を維持する。(R4 91.3%, R5 91.5%, R6 90.2%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年 12 月 18 日実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒】総じて肯定的な回答の割合が高い。昨年度で質問 11「担任の先生以外にも職員室、相談室や保健室等に、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定的な回答の割合が 67.2%と低かったのが 75.3%と 8.0%も上昇し、生徒が相談しやすい環境になってきたことや、日頃から教員が生徒との信頼関係を築くことに重点をおいたカウンセリングマインドの結果と思われる。また教育相談体制が生徒に浸透し充実してきたことも大きなポイントであると考えられる。 また、質問 23「生徒会活動は活発である。」については、昨年度は肯定的な回答の割合が 76.3%と低下していたが今年度は 79.3%と 3.4%上昇した。今後もっと生徒会活動を活性化し地域を巻き込んだ活動についても考えていく必要があると考えられる。質問 6「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している。」は、今年度は 69.8%と昨年度の 70.4%から低下した。これは、質問文を 2 年前までの「学校はプロジェクターなどの映像機器や 1 人 1 台端末などの情報端末を効果的に活用している。」から「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している。」に絞り込んだことが主な原因と考えられ、1 人 1 台端末の効果的な活用方法について、教員間で情報共有をさらに進める必要がある。質問 8「朝の読書では、みんなしっかり本を読んでいる。」は、今年度は 83.6%と昨年度の 69.5%から 14.1%と大幅に上昇した。朝の読書の意義について、生徒に改めて情報発信していきたいと考える。 【保護者】今年度も質問 2「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。」については、肯定的な回答の割合は、58.1%で生徒の回答の割合 88.9%に比べてかなり低い。今後も授業改善に向けた取り組みをより一層進めるとともに、及び保護者への情報発信の充実が必要と考えられる。質問 14「文化祭、授業参観や PTA 活動などで学校に行ったことがある。」の肯定的な回答の割合は 65.3%と昨年度の 66.0%から少し減少した。また、質問 13「体育祭や文化祭などの生徒会行事が活発である。」は、今年度は 93.0%と昨年度の 91.5%からは少し増加した。質問 5「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」は、今年度は 80.2%と昨年度の 87.8%から減少した。教員が普段から子どもの変化に目を配るとともに、年 3 回実施するいじめアンケートの結果をもとに、しっかりと聞き取りを行って状況を把握するよう努めていき、早期発見と敏速に注意する対応についてしっかりと体制を取らなければならないと考えられる。 【教職員】質問 2「校長のリーダーシップのもと、教職員相互の信頼関係に基づいて、教育活動が行われている。」について、肯定的な回答の割合は、今年度は 86.5%と昨年度の 76.5%から大幅に増加した。また、質問 23「本校では、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」についても、今年度の肯定的な回答の割合は 84.3%と昨年度の 70.6%から大幅に上昇した。普段の教育活動について、しっかりと評価を行うとともに、様々な教員の意見を集約しながら本校の教育課題にとりくんで行くことが大切である。 質問 7「本校では、教育活動に必要な情報や連絡事項を、生徒・保護者・地域へ周知するよう努めている。」も、今年度は 86.5%と昨年度の 91.2%から減少した。学習支援連絡網のメッセージ機能で配信するようにしたがまだまだこまめな配信の努力が必要である。 質問 20「生徒は、挨拶をしている。」について、今年度の肯定的な回答の割合は 90.4%と昨年度の 97.1%から減少した。教員からの普段からの挨拶や声掛けを徹底し生徒へアプローチすることを心がけ、今後も積極的に挨拶や声掛けを続けていきたい。 質問 4「授業は静かで、生徒は集中している。」については、肯定的な回答の割合が 84.6%と昨年度の 82.4%より少し上昇し引き続き生徒が落ち着いた状況で授業を受けられるような教室の雰囲気であることがわかる。 質問 10「本校では、生徒の興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう指導を行っている。」については今年度の肯定的な回答の割合は 92.4%と昨年度の 81.8%から大幅に上昇した。進路説明会や進路 HR などの内容をさらに充実させることはもちろんのこと、普段の生活や授業の中で、学校での生活が生徒の進路と結びつき、将来の方向づけとなるような高校生活になる努力をすることが大切である。	第 1 回（令和 7 年 7 月 9 日実施） ・中高連携の体制を作るべき。 ・アドミッションポリシーの見直し。防災科を設置しては？ ・10 年後の高校 1 年生は 60 万人ほどという数字が予想できる。この数字を踏まえたうえでの学校運営を行う。人口減少に応じた長期的視野をもつ。 ・個人の適正を伸ばし、活かすシステムが必要。英検、スポーツの利用。 ・人を選べる時代ではなくなっている。優秀な人以外に高石に来たい子を受け入れる。 ・行ける学校から行きたい学校へ、高石高校ならではの生徒募集。 ・高石高校に来たいと思わせる特色をつくる。 ・教員の負担にならない、かつ、教育が疎かにならない教育システムが必要。 ・子ども食堂などのボランティアを通じて交流を深め、教員などになりたい人の育成。 ・生徒指導提要改訂をともなつて、指導から支援へ。 ・学校のハードの維持・計画はあるのか。 第 2 回（令和 7 年 12 月 4 日実施） ・近年、AI の進化により社会の職業構造が大きく変化している。これまで人の手で行われていた業務の一部が自動化される一方で、現場での実践力や柔軟な対応力が求められる仕事が目立っている。 ・こうした背景から、看護・医療系の進路は依然として重要であるものの、「安易に薦める」時代ではなくなってきている。生徒一人ひとりの適性や興味を丁寧に見極め、幅広い選択肢の中から最適な進路を共に考えることが、これからの進路指導のポイントになるのではないかと。 ・本校の卒業生が、どの大学に進学し、どのような職業に就いているのかをデータとして整理・分析することで、より具体的に信頼性の高い情報を生徒に提供できるようになると考える。こうした取り組みは、生徒の未来を支える大切な一歩になるのではないかと考える。 ・学校のタイムリーな情報発信が困難になると思われる。SNS と学校運営とを良い方向に持っていくために、時代や社会の変化についていくことが重要であると考ええる。 ・地域連携活動（高石市との連携事業・災害ボランティア活動等）としての情報発信・広報活動は、個人情報に配慮しながらも引き続きお願いしたい。 ・吹奏楽部などが外部イベント等に多く参加していることを利用し広報活動の一環として盛り上げていくことが学校として重要ではないかと。 ・入試制度は変わるが、依然として生徒が私立高校へと流れていくことが懸念される。 ・本校の特徴であるボート部などのクラブ活動を用いて学校の特色を強調することが必要になると思われる。 ・学校で行っている業者実力テストの成績は、一定の相関はあるものの、必ずしも社会での貢献度を示すものではない。そのため、公立高校はただ成績を上げることに執着せず、「将来の夢を持てる度」、「将来の幸せ度」等のこれまでとは異なる評価軸を設けることも大切になるかと考えられる。 ・家庭学習時間の通減から、学習意欲の向上と自ら学ぶ習慣を確立させるために、カリキュラム・指導法・教材の工夫など、生徒に勉強を楽しみと思わせるしかけづくりを何か考えて欲しい。 ・自分で、何が良いことで悪いことなのか判断できる力をつけさせる指導を求める。 ・卒業後は本校の同窓会員であるという意識をもたせる指導を求める。 第 3 回（令和 8 年 2 月 19 日実施） ・いじめに関する教員の対応について、生徒の評価と保護者からの評価のズレを感じる。人間関係の些細なもつれをいじめと捉えるのが原因か。誤解されないように動くことが必要である。 ・近年 SNS による目に見えないいじめが増加している傾向にあるのではないかと。 ・SNS 使用に関して、生徒への呼びかけや注意喚起を適宜実施していくことが必要である。 ・朝読に対して、保護者と生徒の評価のズレがある。生徒からは高評価なのに朝読の充実度が保護者に伝わっていない。「高校生オススメの図書」を POP で紹介するなど保護者に伝える工夫を行うことで、保護者から教員への信頼度を上げていくことがより必要ではないかと。 ・令和 10 年度入試について、高石高校の特色枠をより明確にする必要があるのではないかと。特色枠の上限 50%を使い切っていない高校がほとんどである。近隣の他校であれば、野球・バスケットに特化した生徒を 20%特色枠として採用している学校もある。高石高校が学力特化にするのであればそれでも良いと思うが、実際どうだろうか。人事異動では、教科が優先されるなどクラブ特化は難しいかもしれないが、引き続き検討を重ねて欲しい。 ・最近の進路状況として、看護医療系への進学希望が増えている。理系・文系・専門・就職と多岐にわたる選択肢を与え、生徒それぞれに合った様々な進路を提示していくことが必要である。 ・ここ数年の結果で、ICT 教育による効果は薄いという意見もある。高石高校はこの結果の上で ICT 教育に頼らない方針で進めるべきである。 ・今の生徒は、何かあればすぐに携帯に頼ってしまい、時間が奪われてしまう。生徒たちが携帯に時間を奪われないようにさせる工夫が必要である。

府立高石高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校	(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む	(1) ・部活動への入部を奨励し、生徒の自立心を育む。 ・国際交流の機会を増加させる。 ・「第四次大阪府子ども読書活動推進計画」の基本方針のもと、朝の読書を行う。朝の読書の習慣をつけるために新年度の開始時は担任だけでなく、副担任も教室に入り、生徒と一緒に本を読む期間を設ける。また、家に本がなく読書習慣を持たない生徒も増えているため、学級文庫の充実を毎年図る。読書習慣がない生徒のために各クラスで読みたい本の希望を募ったり、最新の売れ筋ランキングの本や映画化した本などの話題書を置いたりするなどし、読書のハードルを下げる取組を行う。 ・遅刻者数を減らす。そのために、遅刻者への説諭の回数を増やすなど丁寧な指導を行い、学校と保護者との連携を深める。	(1) ・入学当初から勧誘することで部活動入部率 55%以上を維持する。[58.0%] ・(海外) 語学研修等参加件数 1 件以上、海外の学校との交流件数 2 件以上。 [語学研修参加数 1 件、交流事業数 2 件] ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見を 80%以上とする。[69.5%]	(1) ・部活動入部率は入学当初より勧誘を行い 62.0%であった。(◎) ・(海外) オーストラリアへの語学研修は円安による旅費の高騰等により申込者数が少なく不成立。海外の学校との交流は、7 月 25 日にアメリカ カリフォルニア州のロミタ市の高校生との交流会を実施。12 月 8 日にフィリピンのセブ島の「ACT IEF Senior High School」との姉妹校締結を行った。3 月 24 日～28 日に交流のため、同校を訪問予定。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定率は 83.6%であった。(◎)
	(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく	(2) ・外部指標教材を活用し、学力の向上を図る。 ・進路希望を実現するために、最後まであきらめない意識を持たせる。	(2) ・4 年制大学合格率を、実人数で 80%以上とする。[94.5%] ・学校斡旋の就職決定率 100%を維持する。[100%] ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」肯定的意見 90%以上を維持する。[94.9%]	(2) ・4 年制大学合格率は、実人数で 93.9%であった。(○) ・学校斡旋の就職決定率 100%を維持した。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定率 95.1%であった。(◎)
	(3) 安全で安心な学校づくりを行う	(3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する。 ・教育相談委員会を充実させ、SC とともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める。 ・人権平和教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。 ・防災・減災への積極的な取組を図る。また、これらの安全教育や危機管理等の取組を通して、外部組織・団体との交流や支援活動等を推進し地域貢献を図る。	(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見を 70%以上とする。[66.7%] ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見 60%以上を維持する。[67.2%] ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見 90%以上を維持する。[93.1%] ・生徒による防災・減災の実践報告や発表を 3 回以上学校内外で実施する。[3 回] ・防災減災に関連する対外的活動や交流を実施する。	(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定率は 82.7%であった。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率は 75.3%であった。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率は 94.2%であった。(◎) ・生徒による防災・減災の実践報告や発表を学校内外で 4 回実施した (11/17 高石市総合防災訓練、12/24 全校集会、1/22 宮崎県高校生防災リーダー研修会、2/9 高石市災害ボランティア報告会)。(◎) ・防災減災に関連する対外的活動や交流を実施した (11/18～11/21 石川県災害ボランティア活動を実施し、11/18 金沢北陵高校と交流、11/19 輪島高校と交流)。(◎)

府立高石高等学校

2 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校	(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる	(1) ・家庭等での学習を定着させる。そのために早期に進路目標を決定させる機会をもうけ、家庭学習につなげる。 ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進度や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すため ICT 機器等を活用した教材や指導法を研究し実践する。 (2) ・授業アンケート結果及び校内外の授業見学を通して、授業改善に取り組む。授業見学推進のため、教員1人当たりの校内授業見学回数を3回以上実施するように全教員に呼びかけ、授業見学時に作成する「ほめあげシート」を管理職と授業担当者の両方に提出するように求める。 ・初任3年めまでの教員を対象とした「新三研修」を継続し、研究授業とともに振り返りも行う。 ・「府立学校における働き方改革にかかる取組みについて」に沿った取組みや学校部活動方針の順守し、教員の健康管理の観点から、時間外在校時間の縮減を行う。	(1) ・1日平均学習時間を60分以上とする[26分]。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」肯定的意見80%以上を維持する。[86.2%] ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見90%以上を維持する。[91.2%] ・生徒向け学校教育自己診断「1人1台端末の効果的活用」肯定的意見を80%以上とする。[70.4%] (2) ・教員相互の授業見学を80%以上とする。[75.6%] ・全教員の延べ校内外授業見学総数100回以上を維持する。[231回] ・「新三研修」に初任3年めまでの教員が全員参加する。 ・会議の回数を減らす等の工夫をすることによって、2月末時点までの月平均時間外在校時間を前年度実績以下に抑える。[26時間08分]	(1) ・1日平均学習時間は25分であった。(△) ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定率は88.9%であった。(◎) ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定率は97.1%であった。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「1人1台端末の効果的活用」の肯定率は69.8%であった。(△) (2) ・教員相互の授業見学は65.4%であった。(△) ・全教員の延べ校内外授業見学総数はのべ218回であった。(○) ・「新三研修」に初任3年めまでの教員が全員参加した。(○) ・会議の回数を絞る等の工夫をすることによって、月平均時間外在校時間は2月末時点で28時間48分であった。(△)
3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校	(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく	(1) 【学校を外に開く】 ・自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との積極的な交流を通して、地域に貢献する。 ・高石市と連携して防災訓練などの取組みを実施する。 ・教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。 【学校を内に開く】 ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取組みを実施する。 ・学校情報の外部発信を行う。 ・創立50周年に向けて準備をすすめる。	(1) 【学校を外に開く】 ・年20回以上、出前授業や生徒派遣等を行い、諸団体・組織との交流を積極的に図る。[20回] ・高石市と連携して、防災訓練を実施したり、「探究『防災減災』」の成果発表を行う機会などを作る。 ・広報委員会を核とする学校全体での外部訪問件数を前年度以上とする。[105件] 【学校を内に開く】 ・学校説明会、体験入学やクラブ体験等の参加延べ人数を合計700名以上とする。[600名] ・保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定的意見90%以上を維持する。[90.2%] ・積極的な情報発信を行う。広報紙「たか高トピック」を毎月定期的に発行する。 ・創立50周年に向けて同窓会、後援会との連携の機会を学期ごとに持つ。	(1) 【学校を外に開く】 ・出前授業や生徒派遣等を年10回行い、諸団体・組織との交流を積極的に図った。(△) ・高石市総合防災訓練「イザ！カエルキャラバン！in 高石」に参加して活動報告を行った。(○) ・広報委員会を核とする学校全体での外部訪問件数は85件であった。(△) ※ほとんど入学実績のないところは案内の郵送のみにすることにより減少した。 【学校を内に開く】 ・学校説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ720名であった。(◎) また、保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定率は90.2%であった。(○) ・積極的な情報発信に努める。広報紙「たか高トピック」を毎月定期的に発行した。(○) ・創立50周年に向けて、同窓会長、元校長と情報共有を3回行った。(○)